

2016 年度 研究センター事業報告書

研究センター名	環太平洋文明研究センター
研究センター長名	安田 喜憲

I. 研究成果の概要

本欄には、研究センターの実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、項目立てなどをおこなってできるだけわかりやすく記述してください。

■拠点全体の研究成果要約

研究成果の国際的発信: 8月に開催された世界考古学会(以下 WAC-8)における国際シンポジウムの開催(セッション・オーガナイザー安田センター長)および同学会における客員協力研究員・嘉幡氏の講演会登壇などを通して、環太平洋文明に関する研究成果の発信を行なった。

異分野共同研究の推進: BKC 理工学部川村貞夫教授のロボット技術と連携し、琵琶湖湖底で**新たな土器埋没地点**を発見し、文理融合の顕著な成果を挙げた。

社会的貢献: 特定の地震の発生時期の予測や特定地域の避難経路図の実用性の再検討を通して、学術成果の実践的活用を推進した。

若手研究員の育成: 当センター中村専門研究員の WAC-8 における研究成果発表、および当センター紀要第 1 号への全若手研究員の執筆など通常の発表会以外での研究者としての実践的機会を提供した。

■各グループの研究成果

第 1 班(文化人類学/渡辺 公三グループ)

環太平洋地域における「人間-環境関係」をめぐって、メンバーそれぞれがフィールドとする地域において、調査・研究を進めた。それに基づき、多様な環境・社会における同時代的な物質循環モデルを構築し、国際シンポジウムを開催。また、研究成果を総括する論文集『異貌の同時代』の準備に着手する事(2017年5月に刊行予定)により社会還元に取り組んだ。

第 2 班(環境考古学/安田 喜憲グループ)

2015 年度にボーリング試料を採掘したコロンビア・グアタビータ湖に関する研究成果を同国から招聘した研究者とともに WAC-8 にて発表した。その後、包括的な成果の統合に向けて、古代ムイスカ文明期における環境変遷の復元を目標とした同湖・湖底堆積物試料の分析(特に、CNS(炭素、窒素、硫黄)を主とした詳細な元素分析)と年縞の年代分析を進行させている。また、研究成果の国際発信の拡大を念頭に置き、前述のコロンビアの研究者と共同研究を継続することで合意している。

第 3 班(縄文考古学/矢野 健一グループ)

関西縄文遺跡データベース(約 12000 基の遺構と約 20 万点の出土遺物)の全データの結合作業およびデータベース構築を進めた。また、ペルーでアンコン遺跡出土土器とシエネギラ遺跡出土土器・土偶・石製品の実測図作成と調査を実施した。加え、文理融合型プロジェクトとして、水中ロボットを用いた琵琶湖の湖底遺跡調査を行ない、新たな土器埋没地点を発見した。

第 4 班(災害地理学/高橋 学グループ)

地震データベースから地震予測研究を進めた結果、巨大地震は突然起こるのではなく、発生の約 2 か月前に 3 段階の前兆現象が始まっていることを明らかにし、広く成果の発信に努めた。特に、南海トラフ地震の発生時期の予測や東京都の災害非難図の実用性を検討した結果を、紙媒体やインターネットなど様々なメディアにて公表し、災害地理学分野の社会的役割を大きく担ったと認識している。

■今後の展望

◇**外部資金の獲得:** 科研費 4 件への応募に加え、2017 年度はそれ以外の外部助成に積極的な応募を行うため、委員会と事務局一丸となって情報共有を行う。

◇**センターの活性化:** 5 年目を迎えるにあたりセンターの更なる活性化を図るべく、2017 年度は新規運営委員を積極的に採用する。

◇**若手育成の強化:** 紀要第 2 号の発刊やそれ以降の紀要に関して、若手研究員をより多く取り込み育成に注力する。

II. 拠点構成員の一覧

本欄には、2017年3月31日時点で各拠点にて所属が確認されている本学教員や若手研究者・非常勤講師・客員研究員等の構成員を全て記載してください。

※若手研究者とは、立命館大学に在籍する以下の職位の者と定義します。

①専門研究員・研究員、②補助研究員・RA、③学振特別研究員(PD・RPD)、④博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍する院生

役割	氏名	所属	職位	
センター長	安田 喜憲	衣笠総合研究機構	教授	
運営委員	渡辺 公三	先端総合学術研究科	教授	
	高橋 学	文学部	教授	
	矢野 健一	文学部	教授	
学内教員 (専任教員、研究系教員等)	小川 さやか	先端総合学術研究科	准教授	
	原 毅彦	国際関係学部	教授	
	松永 光平	文学部	准教授	
	中川 毅	総合科学技術研究機構	教授	
学内の若手研究者	専門研究員・研究員	富田 敬大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		篠塚 良嗣	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		中村 大	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		神松 幸弘	立命館グローバル・イノベーション研究機構	専門研究員
		谷端 郷	衣笠総合研究機構	専門研究員
		近藤 宏	衣笠総合研究機構	専門研究員
	補助研究員・リサーチアシスタント			
	学振特別研究員 (PD・RPD)			
	博士後期課程院生・一貫制博士課程3回生以上に在籍院生	原田 昌浩	文学研究科	博士課程後期課程
		モリ カイネイ	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		梁 説	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
		岩田 京子	先端総合学術研究科	博士課程後期課程
	その他の学内者 (非常勤講師・研究生・研修生等・博士前期課程院生等)			
客員協力研究員	市木 尚利	ペルー・リマ日本人学校	常勤講師	
	尾関 清子	東海学園女子短期大学	名誉教授	
	小野 林太郎	東海大学海洋学部海洋文明学科	准教授	
	嘉幡 茂	ラス・アメリカス大学社会科学部人類学科	准教授	
	北川 淳子	福井県里山里海湖研究所	主任研究員	
	坂井 正人	山形大学人文学部	教授	
	篠上 雄彦	日本検査キューエイ株式会社審査本部審査第3部	理事審査員	
	清水 昭	国家公務員共済組合連合会三宿病院脳卒中センター	センター長	
	瀧上 舞	日本学術振興会	特別研究員(PD)	

	竹田 武史		写真家
	谷口 正次	京都大学大学院経済学研究科	特任教授
	中山 厚	日本ギア工業株式会社	社外取締役
	那須 浩郎	総合研究大学院大学先導科学研究科	助教
	野嶋 洋子	アジア太平洋無形文化遺産研究センター	アソシエイトフェロー
	長谷川 悦夫	埼玉大学教育機構	非常勤講師
	藤木 利之	岡山理科大学理学部基礎理学科	講師
	村山 茂樹	日刊工業新聞社編集局第二産業部	記者
	森下 直紀	和光大学経済経営学部	講師
	吉澤 保幸	びあ株式会社	取締役 CCO
	東村 純子	福井大学教育地域科学部	講師
	真邊 彩	鹿児島県立埋蔵文化財センター	文化財研究員
	谷家 衛	株式会社お金のデザイン	共同創設者
その他の学外者 (他大学教員・若手研究者等)	松森 智彦	同志社大学高等研究教育機構	特別任用助教
	石田 智恵	日本学術振興会	特別研究員 PD
	上峯 篤史	日本学術振興会	特別研究員
	中塚 良	向日市埋蔵文化財センター	主任
	千葉 豊	京都大学文化財総合研究センター	准教授
	大野 薫	大阪府立狭山池博物館	嘱託
	山田 和芳	静岡県ふじのくに地球環境史ミュージアム整備課	准教授
	外山 秀一	皇學館大学	教授
	Xun Li	ニュージーランド・GNS Science	研究員
	森 勇一	金城学院大学	講師
	福本 侑	九州大学大学院理学府	博士後期課程院生
	丸山 真史	東海大学海洋学部	講師
	佐々木 尚子	京都府立大学	共同研究員
	木村 浩章	大阪府教育委員会	主査
研究所・センター構成員 計 54 名 (うち学内の若手研究者 計 10 名)			

Ⅲ. 研究業績

本欄には、「Ⅱ. 拠点構成員の一覧」に記載した研究者の研究業績のうち、拠点に関わる研究業績を全て記載してください。(2017年3月31日時点)

1. 著書							
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	その他編者・著者名	担当頁数
1	矢野健一	水中ロボットを用いた葛籠尾崎湖底遺跡調査の中間報告と課題	共著	2016年5月	日本考古学協会第82回総会研究発表要旨, 日本考古学協会	川村貞夫他4名	PP.26~27
2	安田喜憲	環太平洋文明叢書4 対馬海峡と宗像の古墳文化	共編	2016年5月	雄山閣	西谷正	
3	安田喜憲	第2章2項 年縞を軸とした環太平洋文明の研究拠点	単著	2016年5月	環太平洋文明叢書4 対馬海峡と宗像の古墳文化, 雄山閣	八幡 暁他7名	PP.74-84

4	矢野健一	土器編年にみる西日本の縄文社会	単著	2016年5月	同成社		
5	矢野健一 中村大	関西を中心とした縄文遺跡データベースの構築と活用	共著	2016年5月	日本考古学協会第82回総会研究発表要旨, 日本考古学協会	関西縄文文化研究会	PP.26~27
6	Oki Nakamura	Visualization of Local Communities and Diversity in Rituals in the Late and Final Jomon, Japan	単著	2016年6月	SEVENTH WORLDWIDE CONFERENCE OF THE SOCIETY FOR EAST ASIAN Archaeology, Society for East Asian Archaeology	David REICH Rowan FLAD 他多数	P.103
7	矢野健一	長野市宮崎遺跡出土成人骨と乳児骨の同位体分析	共著	2016年6月	日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集, 日本文化財科学会	日下宗一郎 藤澤珠織	PP. 286~287
8	矢野健一	長野市宮崎遺跡出土の縄文時代玉製品の石材産地	共著	2016年6月	日本文化財科学会第33回大会研究発表要旨集, 日本文化財科学会	大坪志子 妹尾一樹	PP. 108~109
9	中村大	私たちはどこまで進んだか-アート&考古学に関する一つの展望	単著	2016年7月	アートと考古学展 物の声を、土の声を聴け 京都文化博物館	松井利夫 村野正景	PP.76~77
10	小川さやか	「その日暮らし」の人類学-もう一つの資本主義経済	単著	2016年7月	光文社新書		
11	小川さやか	第9章 <借り>を回すシステム-タンザニアにおける携帯による送金サービスを事例に	単著	2016年8月	臨川書店	岸上伸啓他 12名	PP.209~237
12	近藤宏	毒蛇と獲物-パナマ東部先住民エンベラにおける動物殺しの布置	単著	2016年10月	動物殺しの民族誌, 昭和堂	奥野克巳, シンジルト編	PP.169~208
13	富田敬大	近現代モンゴルにおける畜産物利用の変化-乳・乳製品の域外販売と域内消費に着目して	単著	2016年12月	東北アジア研究センター叢書, 58, 東北大学	風戸真理・尾崎孝宏・高倉浩樹編	PP.29~60
14	中川毅	人類と気候の10万年史	単著	2017年2月	講談社		
15	安田喜憲	森の日本文明史	単著	2017年3月	古今書院		
16	矢野健一	尾関清子先生寄贈編物関連資料目録	共監修	2017年3月	立命館大学環太平洋 文明研究センター	末松万由子	
17	神松幸弘	多元素同位体分析指標を用いた日本産小型サンショウウオ類の生態系における機能的多様性の解明	単著	2017年3月	公益信託エスベック地球環境研究・技術基金平成27年度 助成金研究報告書		

2. 論文								
No.	氏名	著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行年月	発行所、発表雑誌、巻・号数	その他編者・著者名	担当頁数	査読有無
1	Kitagawa, Junko, Kazuyoshi Yamada, Yoshinori Yasuda	Understanding the anthropogenic impact on Akita-cedar (Cryptomeria japonica) forest in the late Holocene through pollen analysis of annually laminated sediment from Ichi-no-Megata, Akita, Japan.	共著	2016年4月	Vegetation History and Archaeobotany, 25(6)	Yoshimune Morita, et.al (他4名)	PP. 525~540	有
2	中村大	アートな考古学の風景④共に語らい、共	共著	2016年6月	考古学研究, 考古学研究会, 第63巻第1号	松尾恵	PP. 17~21	有

		に愉しみ、共に拓く						
3	Yukihiro, Kohmatsu	Terrestrial-aquatic linkage in stream food webs along a forest chronosequence: multi-isotopic evidence	共著	2016年5月	Ecology, 97 (5)	Naoto F. Ishikawa, et al (他10名)	PP. 1146-1158	有
4	安田喜憲	「生命文明の時代を招来しなければならぬ」	単著	2016年9月	科学, 岩波書店		PP. 873-875	有
5	安田喜憲	廃棄物資源循環学会と文明の未来	単筆	2016年9月	廃棄物資源循環学会誌, 28(2)		PP.101~102	有
6	安田喜憲	ライフスタイルの転換: 畑作牧畜文明から稲作漁撈文明へ	単筆	2016年9月	共生科学, 29		PP.76~86	有
7	北川淳子	気候変動メカニズムの解明の鍵となる水月湖年縞堆積物の高精度な環境変動記録	単著	2016年9月	環境管理, 52(9), 産業環境管理協		PP.26~29	無
8	Takeshi, Nakagawa	Identification of the Changbaishan 'Millennium' (B-Tm) eruption deposit in the Lake Suigetsu (SG06) sedimentary archive, Japan: Synchronisation of hemispheric-wide palaeoclimate archives	共著	2016年10月	Quaternary Science Reviews	Danielle McLean 他5名	PP.301~307	有
9	小川さやか	歓待と無関心のあいだ	単著	2016年12月	考える人, 2017年冬号, 新潮社		PP.68~73	無
10	中村大, 松森智彦	『防長風土注進案』記載の産業と手工業製品	共著	2017年1月	山口大学教育学部研究論叢 (第1部), 66	五島淑子	PP.41~56	無
11	中村大	『防長風土注進案』に記載された穀物類の地図化	共著	2017年1月	山口大学教育学部研究論叢 (第1部), 66	五島淑子	PP.31~40	無
12	Takeshi, Nakagawa	Geological support for the Umbrella Effect as a link between geomagnetic field and climate	共著	2017年1月	Scientific Reports 7	Ikuko Kitaba 他5名		有
13	小川さやか	不透明な未来を見据えた「ゆとり」を育む社会関係	単著	2017年1月	教育と文化, 86, アドバンテージサーバー		PP.38~43	無
14	原田昌浩	加古川下流域の埴輪一人塚古墳の調査成果を中心にー	単著	2017年1月	播磨の埴輪 第17回播磨考古学研究集会の記録, 第17回播磨考古学研究集会実行委員会		PP.23~46	無
15	安田喜憲	環太平洋文明研究の刊行によせて	単著	2017年2月	環太平洋文明研究, 1		ページ番号無	無
16	富田敬大	モンゴルにおける人と自然のかかわりー遊牧民による環境利用の近現代の変容	単著	2017年2月	環太平洋文明研究, 1		PP. 47~68	有
17	篠塚良嗣, 山田和芳, 北川淳子	三方五湖における年縞の有無と水月湖に年縞を形成した古環境の復元・湖で採取したコアから探る	共著	2017年2月	環太平洋文明研究, 1	入澤汐菜, 瀬戸浩二	PP.93~104	有

18	矢野健一	縄文時代における人口問題の重要性	単著	2017年2月	環太平洋文明研究, 1		PP.11~22	有
19	中村大	縄文時代の墓制と祭祀にみられる地域的特徴-GISと統計解析による地域性の数量化と可視化	単著	2017年2月	環太平洋文明研究, 1		PP.23~46	有
20	市木尚利	チャンカイ「白地黒彩土器」の焼成回数に関する一考察	単著	2017年2月	環太平洋文明研究, 1		PP.93~104	有
21	高橋学	巨大地震・大地震は突然に起きない	単著	2017年2月	環太平洋文明研究, 1		PP.1~10	有
22	神松幸弘	メコン川下流水田域における生業、土地利用、生態系サービス-水位変動下における適応-	共著	2017年2月	環太平洋文明研究, 1	富田晋介他3名	PP.69~92	有
23	近藤宏	皮膚という表面-パナマ東部先住民エンペラの身体の形象	単著	2017年2月	現代思想, 2017年3月臨時増刊号, 青土社		PP.248~262	無
24	Takeshi, Nakagawa	Evidence for a bipartition of the Younger Dryas Stadial in East Asia associated with inversed climate characteristics compared to Europe	共著	2017年3月	Scientific Reports 7	Gordon Scholaut他9名		有
25	安田喜憲	年縞による気候変動と文明興亡の研究	単著	2017年3月	環境考古学と富士山, 1 雄山閣	松島仁他9名	PP.14~33	有
26	安田喜憲	『和文誌環境考古学と富士山』の刊行に寄せて	単著	2017年3月	環境考古学と富士山, 1 雄山閣	松島仁他9名	ページ番号無	無
27	原田昌浩	デジタル技術を用いた古墳の調査方法について	単著	2017年3月	『畿内の首長墳』平成25~28年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書		PP. 595~604	無
28	原田昌浩	人塚古墳の形象埴輪について	単著	2017年3月	加古川市西条古墳群人塚古墳, 加古川市文化財調査報告25, 加古川市教育委員会		PP.88~95	無

3. 研究発表等					
No.	氏名	発表題名	発表年月	発表会議名、開催場所	その他発表者名
1	富田敬大	ミルクと社会主義-乳利用からみたモンゴル牧畜社会の近代的変容	2016年5月	環太平洋文明研究センター第10回定例研究会, 立命館大学・衣笠キャンパス	
2	石田智恵	「失踪」と「死」のあいだ—アルゼンチンにおける「失踪者」親族の語りから	2016年5月	日本文化人類学会第50回研究大会, 南山大学名古屋キャンパス	
3	篠塚 良嗣, 山田 和芳	秋田県一ノ目潟のコア堆積物から得られた古地磁気方位の変動の信頼性	2016年5月	日本地球惑星科学連合2016年大会, 千葉市幕張メッセ	安樂 和央, 林田 明, 北場 育子, スタッフリチャード, 原口 強, 五反田 克, 米延 仁志
4	北川 淳子, 篠塚 良嗣, 山田 和芳	日本海側の人間活動と森林変遷-福井県日向湖と北潟湖を例に	2016年5月	日本地球惑星科学連合2016年大会, 千葉市幕張メッセ	吉田 明弘, 入澤 汐奈, 瀬戸 浩二
5	矢野健一	水中ロボットを用いた葛籠尾崎湖底遺跡調査の中間報告と課題	2016年5月	一般社団法人日本考古学協会第82回(2016年度)総会, 東京学芸大	川村貞夫, 島田伸敬, 坂上憲光, 妹尾一樹, 三ツ井友輔, 加治木太郎
6	中村大, 矢野健一	関西を中心とした縄文遺跡データベースの構築と活用	2016年5月	一般社団法人日本考古学協会第82回(2016年度)総会, 東京学芸大	関西縄文文化研究会
7	Kozo Watanabe	La pensee sauvage et le Japon	2016年6月	シンポジウム"Levi-Strauss et le Japon", パリ, ギメ美術館	

8	Junko Kitagawa, Yoshitsugu Shinozuka,	Cold period developed the buckwheat culture in Fukui, Japan	2016年6月	57th Annual meeting of the Society for Economic Botany, Pine Mountain USA	Tomoaki, Yoshida
9	Oki Nakamura	Visualization of Local Communities and Diversity in Rituals in the Late and Final Jomon, Japan	2016年6月	Seventh Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology, ボストン大学, ボストン	
10	石田智恵	アルゼンチン社会と在亜日系コミュニティにおける「ハボネス」のイメージ	2016年6月	日本ラテンアメリカ学会第37回定期大会, 京都外国語大学	
11	小川さやか	「負債」から「借り」へータンザニアにおける携帯を通じた送金システム (M-pesa) を事例に	2016年6月	日本アフリカ学会第53回学術大会, 日本大学生物資源科学部	
12	Chie Ishida	Contra la memoria nacional: voces por los desaparecidos japoneses	2016年6月	The 2016 U-Tokyo LAINAC International Conference, 東京大学・駒場キャンパス	
13	富田敬大	遊牧民とミルク、社会主義モンゴルにおける変容ー乳・乳製品の域内消費と域外販売の関係に着目して	2016年6月	近現代モンゴル社会の変容に関する研究会, 明治大学・駿河台キャンパス	
14	矢野健一	長野市宮崎遺跡出土成人骨と乳児骨の同位体分析	2016年6月	日本文化財科学会第33回大会, 奈良大学	日下宗一郎, 藤澤珠織
15	矢野健一	長野市宮崎遺跡出土の縄文時代玉製品の石材産地	2016年6月	日本文化財科学会第33回大会, 奈良大学	大坪志子, 妹尾一樹
16	中村大	GISと縄文時代研究ー北東北の後・晩期の事例を中心に	2016年6月	2016年度第1回研究会考古科学を理解する, 国立民族学博物館	
17	中村大	縄文時代の墓制研究と階層社会論のゆくえ: 統計解析とGISで読み解く地域的特徴	2016年7月	第18回立命館大学考古学談話会, 立命館大学・衣笠キャンパス	
18	岩田京子	日本における風致保全活動の思想と技術ー近代京都における農学・造園学の実践に着目して	2016年7月	環太平洋地域における人間=環境関係の人類学的検討グループ2016年度第1回研究会, 立命館大学・衣笠キャンパス	
19	石田智恵	アルゼンチン司法人類学チームの活動: 「失踪」から「死」への書き換え	2016年7月	慶應義塾大学人類学研究会, 慶應義塾大学三田キャンパス	
20	篠塚良嗣	湖底堆積物の無機分析に基づく過去数千年間の古環境変遷	2016年7月	環太平洋文明研究センター第11回定例研究会, 立命館大学・衣笠キャンパス	
21	Yoshinori Yasuda	The Origin of Rice Culture and the Formation of the Hmong Group	2016年8月	第八回世界考古学会議京都大会, 同志社	Guodong Li
22	Kazuyoshi Yamada	Environmental history of the Pan-Pacific region based on the analyses of annually laminated sediments	2016年8月	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	
23	Xun Li	Reconstruction of the landscape transformation following Polynesian and European arrivals in New Zealand	2016年8月	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	
24	Hiroo Nasu	Seed enlargement of soybean and azuki during the Middle Jomon, Central Japan	2016年8月	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	
25	Junko Kitagawa	The Effects of Climatic Changes on the Settlement History of the Jomon People of Lake	2016年8月	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	

		Mikata Area of Japan			
26	Kenichi Yano	Archaeological Survey Using Robots of Tsuzuraozaki Underwater Site in the Lake Biwa, Japan	2016年8月	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	Sadao Kawamura, Nobutaka Shimada
27	Manabu, Takahashi	Earthquake, Tsunami and Flood Disasters in Prehistoric and Historic Eras	2016年8月	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	
28	Oki Nakamura	A chronological reassessment of demographic change and anthropogenic forests in northern Japan between Early and Late Jomon periods	2016年9月	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	Enrico R. Crema, Marco Madella, Junko Habu
29	Oki Nakamura	Population dynamics during the Jomon period in the northern part of Honshu Island, Japan	2016年9月	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	
30	石田智恵	アルゼンチンにおける「日本」の表象・言説と「日系 japonés/nikkei」の位置	2016年10月	東京外国語大学国際日本研究センター研究会	
31	中村大	東北地方の縄文晩期墓制にみられる地域の特徴とその社会的意味の再検討	2016年10月	滋賀県埋蔵文化財センター, 滋賀県大津市	
32	神松幸弘	ユニバーサルプライマーを用いたサンショウウオ類の環境 DNA 検出	2016年11月	陸水学会, 第 81 回大会, 琉球大学	富田勢他 6 名
33	Sayaka Ogawa	Copy Mobile Phone, Tanzania and China」, Round table "Low-end Globalization on Three Continents"	2016年11月	Anthropological department, Chinese University of Hong Kong	
34	Junko Kitagawa, Yoshitsugu Shinozuka, Yoshinori Yasuda	Understanding the history of Satoyama landscape in Japan Sea Coast area through pollen analysis”, Centenary (1916-2016) of Pollen Analysis and the Legacy of Lennart von Post	2016年11月	the Royal Swedish Academy of Sciences in Stockholm, Sweden	Akihiro Yoshida
35	森下直紀	遊牧研究と地域研究	2016年11月	明治大学	松原正毅
36	Junko Kitagawa, Yamada Kazuyoshi	The history of paleoenvironmental change and its cyclic change during the Common Era in the Lake Hiruga, Fukui Prefecture, central Japan	2016年12月	American Geophysical Union Fall Meeting, San Francisco, CA	Seto Koji, Irisawa Sena, Kota Katsuki
37	Junko Kitagawa	High-resolution paleomagnetic secular variation for the last 20 kyr from varved sediments of Fukui-SG14 core from Lake Suigetsu, central Japan	2016年12月	American Geophysical Union Fall Meeting, San Francisco, CA	Kosuke Tsumura, et al (他 12 名)
38	石田智恵	「失踪」の暴力とその解決——アルゼンチンの「人権問題」と市民社会	2016年12月	イスラーム圏における「ジェンダー化された暴力/苦悩」研究会, 名古屋大学・東山キャンパス	
39	中村大	比較考古学の新たな手法—地域文化を可視化・数量化	2016年12月	第 38 回立命館史学会, 立命館大学衣笠キャンパス	

		するー			
40	Hiroshi Kondo	The figure of pigs: an essay for considering the concept of affordance as a question of power	2017年1月	The Skills of Feeling with the World-Second Workshop, 立命館大学・朱雀キャンパス	
41	北川淳子, 山田和芳	福井県日向湖における古環境変遷史と近年の周期的変動	2017年1月	第24回新春恒例汽水域研究発表会・汽水域研究会第5回例会, 島根大学, 松江	瀬戸浩二, 入澤汐奈, 香月興太
42	北川淳子, 篠塚良嗣, 山田和芳	日向湖堆積物に記録される洪水による植生への影響	2017年1月	第24回新春恒例汽水域研究発表会・汽水域研究会第5回例会, 島根大学, 松江	瀬戸浩二, 吉田丈人
43	神松幸弘	古代甘味料あまつらの復元	2017年1月	立命館大学環太平洋文明研究センター第12回研究会, 立命館大学・衣笠キャンパス	
44	森下直紀	近現代東部内モンゴルにおける土地利用方式の転換	2017年1月	研究会, 明治大学	
45	石田智恵	「強制失踪」の暴力に抗する闘争: 「母性」「女性」に関する論点	2017年2月	〈ジェンダーに基づく暴力複合〉の文化人類学的研究(基盤A)研究会, ホテルグランヴィア京都	
46	高橋学	環太平洋地域における地震と火山噴火-巨大地震は突然発生しない-	2017年2月	拠点形成型 R-GIRO 成果報告会, 立命館大学・びわこ・くさつキャンパス	
47	富田敬大	モンゴル牧畜社会が経験した「近代化」-社会主義下の人間-環境関係を中心に	2017年2月	拠点形成型 R-GIRO 成果報告会, 立命館大学・びわこ・くさつキャンパス	
48	篠塚良嗣	福井県日向湖, 菅湖, 三方湖, 久々子湖から採取した湖底堆積物の無機分析に基づく過去数千年間の古環境変遷	2017年2月	拠点形成型 R-GIRO 成果報告会, 立命館大学・びわこ・くさつキャンパス	
49	中村大	関西縄文遺跡データベースの構築と活用-データが集まれば全体が読みやすくなる-	2017年2月	拠点形成型 R-GIRO 成果報告会, 立命館大学・びわこ・くさつキャンパス	
50	神松幸弘	洪水の災厄と恩恵	2017年2月	拠点形成型 R-GIRO 成果報告会, 立命館大学・びわこ・くさつキャンパス	
51	森下直紀	カナダ水俣病と日本の関係について	2017年2月	水俣病公式確認 60年国際シンポジウム, 和光大学	
52	Oki Nakamura	Local diversity in burial practices during the Final Jomon in the part of northern Honshu island	2017年3月	Society for American Archaeology 82th Annual Meeting, Vancouver, Canada	
53	篠塚良嗣	北潟湖における過去数千年間の古環境変遷史	2017年3月	平成28年北潟湖調査研究成果報告会, 金津本陣 I K O S S A, 福井県あらわ市	
54	北川淳子	津波?高潮?: 北潟湖周辺-時的景観の変化	2017年3月	平成28年北潟湖調査研究成果報告会, 金津本陣 I K O S S A, 福井県あらわ市	
55	中村大	データベースと GIS からみえてくる食文化史	2017年3月	公開シンポジウム, 東北大学川内キャンパス	
56	大野薫	大阪府土偶情報	2017年3月	土偶研究会第14回青森大会, 青森市	

4. 主催したシンポジウム・研究会等					
No.	発表会議名	開催場所	発表年月	来場者数	共催機関名
1	環太平洋文明研究センター第10回定例研究会	衣笠キャンパス	2016年5月	20名	
2	環太平洋文明研究センター第11回定例研究会	衣笠キャンパス	2016年7月	20名	
3	環太平洋文明研究センター第12回定例研究会	衣笠キャンパス	2017年1月	20名	

5. その他研究活動（報道発表や講演会等）				
No.	氏名	研究業績名	発表場所・発行形態等	研究期間(掲載・開催日付)
(報道発表)				
1	高橋学	熊本地震の次は南海トラフだ	IRONNA,産経デジタル	2016年4月16日
2	安田喜憲	自然への畏敬の念	電気新聞	2016年5月
3	安田喜憲	生命文明の時代	電気新聞	2016年7月
4	安田喜憲	環境考古学と富士山	電気新聞	2016年8月4日
5	安田喜憲	真摯な心を取り戻す	電気新聞	2016年10月7日
6	安田喜憲	この3冊：日本再発見	電気新聞	2016年10月9日
7	高橋学	琉球列島―南海トラフ地震は確実に近づいている	週間女性 PRIME	2016年10月20日
8	高橋学	鳥取は予兆…M9 スーパー南海トラフ地震が東京五輪直撃か	日刊現代	2016年10月26日
9	高橋学	専門家には違和感 鳥取巨大地震「横ずれ型」発表の不気味	日刊現代	2016年10月28日
10	高橋学	高橋教授が指摘「西日本の地震の“クセ”は西から東へ。次は鳥取の東が危ない	週間女性 PRIME	2016年11月15日
11	高橋学	地震への備えについて	産経新聞	2016年11月22日
12	安田喜憲	DSA日本空間デザイン賞	電気新聞	2016年11月25日
13	高橋学	M6～7クラスの大地震がいくつ発生しても「3・11」が終わらない理由	週間女性 PRIME	2016年12月1日
14	高橋学	首都圏を震源とする地震が今年は70回以上！在住者が知っておくべき災害時情報とは	週刊プレイボーイ 51号	2016年12月8日
15	小川さやか	「その日暮らし」の生き方・経済	朝日新聞（大阪）	2016年12月28日
16	小川さやか	日本人の忘れ物 知恵会議～未来を拓く京都の集い「見失っている人間個人の余裕」	京都新聞	2017年1月1日
17	安田喜憲	天災は忘れた頃にやってくる	電気新聞	2017年1月17日
18	高橋学	茨城沖地震を的中した教授が警告！「次は千葉県沖か首都圏直下が発生する	週間女性 PRIME	2017年1月18日
19	小川さやか	適度に支えあう緩やかな関係性	山梨新聞	2017年1月19日
20	小川さやか	その時々で支えあう社会	山陽新聞	2017年1月22日
21	安田喜憲	生態系サービス	電気新聞	2017年3月1日
22	矢野健一	ロボット操り考古学 きょうの授業 琵琶湖底の遺跡を調べる	朝日新聞	2017年3月12日
(講演会)				
23	高橋学	六甲山地周辺の自然環境	川西市市民短大,川西市レフネックス	2016年5月21日
24	矢野健一	縄文人はなぜ稲作を受け入れたのか？	朝日カルチャーセンター芦屋教室講座, 朝日カルチャーセンター芦屋教室	2016年5月21日
25	小川さやか	Living for Today の人類学―不確実な世界を生き抜くための狡知	成安造形大学キャリアサポートセンター, 滋賀県大津市	2016年5月23日
26	高橋学	環境史からみた阪神淡路大震災	川西市市民短大,川西市レフネックス	2016年5月28日
27	安田喜憲	新しい世界史像：古代文明は四大文明だけだったかどうか	麗澤大学,千葉県柏市	2016年7月13日
28	神松幸弘	サンショウウオ粘液同位体比研究の夜明け	龍谷大学・勢田キャンパス, 滋賀県大津市	2016年7月15日

29	安田喜憲	環境文明論	ふるさと回帰センター, 東京都千代田区	2016年7月21日
30	安田喜憲	災害と文明: 生命文明の時代を招来する	福岡リーダー塾, 福岡県宗像市	2016年7月31日
31	安田喜憲	日本の風土と気候変動	軽井沢夏期大学, 長野県軽井沢町	2016年8月2日
32	安田喜憲	比較環境	麗澤大学, 千葉県柏市	2016年8月3-6日
33	中村大	縄文を語る	京都御苑九条家遺構拾翠亭, 京都市中京区	2016年8月31日
34	矢野健一	考古学からみた日本文化の源流ー東アジアにおける日本列島の先史文化	2016年度立命館大阪梅田キャンパス講座	2016年10月26日
35	矢野健一	京都の天皇陵と古墳	第24回アカデミック京都ウォッチング(立命館大学父母教育講演会), 衣笠キャンパス	2016年12月11日
36	石田智恵	ドキュメンタリー映画「沈黙は破られた」上映会(企画・解題)	東京大学・駒場キャンパス	2016年12月16日
37	中村大	GISで読み解く火炎土器を育んだ縄文中期の世界	馬高縄文館特別講演会, 長岡市	2017年3月26日
(その他)				
38	渡辺公三	書評: 高野麻子『指紋と近代』を読む	Publisher's Review	2016年6月15日
39	富田敬大	乳利用からみたモンゴル牧畜社会の近代的变化	環太平洋文明研究センターニューズレター No.3	2016年7月11日
40	中村大	展示協力: アートと考古学展 物の声を、土の声を聴け	京都文化博物館	2016年7月23日~9月11日
41	中村大	展示協力: Garden of Fragments カケラの庭	建仁寺塔頭両足院, 京都市	2016年8月27日~9月3日
42	安田喜憲	セッションオーガナイザー: T06W: Environmental History and the Comparison of Pan-Pacific Societies	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市	2016年8月28日-9月2日
43	Oki Nakamura	セッションオーガナイザー: T5N: Understanding prehistoric change in demography and subsistence	第八回世界考古学会議京都大会, 京都市 <Co-Organizers> Enrico R. Crema, Junko Habu, Marco Madella	2016年9月2日
44	小川さやか	TV 出演: 新世代が解く! ニッポンのジレンマー都市と地方”見えない分断線”とは	Eテレ, NHK	2016年9月18日
45	篠塚良嗣	仕事百題 古環境の変遷を復元するための湖沼堆積物の採取方法	環太平洋文明研究センターニューズレター No.4	2016年9月26日
46	高橋学	阿蘇山噴火は大規模な噴火の連鎖の予兆かもしれない!? 大地震の可能性に警鐘を鳴らしてきた立命館大学環太平洋文明研究センターの高橋学教授が大噴火のシナリオを解説	IWJ Independent Web Journal, Available at: http://iwi.co.jp/wj/open/archives/337649	2016年10月10日
47	小川さやか	"Living for today" 世界にはこんな生き方もある	Wedge Infinity, Available at: http://wedge.ismedia.jp/articles/-/7993	2016年10月20日
48	高橋学	スーパー南海地震はいよいよ近い!! ~震度6弱の鳥取地震を受け立命館大の高橋学教授が緊急で警鐘を鳴らす! 「2020年以前にスーパー南海トラフ大地震が発生する可能性が高い。東京五輪開催などは困難」	IWJ Independent Web Journal, Available at: http://iwi.co.jp/wj/open/archives/341297	2016年10月23日
49	小川さやか	アフリカの路上で古着を売ってみた	僕らの未来を広げる WEB マガジン『SEKAI』(東進) Available at: http://toshin-sekai.com/interview/03/	n.d

6. 受賞学術賞

No.	氏名	授与機関名	受賞名	タイトル	受賞年月
該当なし					

7. 科学研究費助成事業						
No.	氏名	研究課題	研究種目	開始年月	終了年月	役割
1	中村大	北日本の縄文時代墓制における地域的特徴の解明とその社会的・象徴的意味の再検討	基盤研究(C)	2016年4月	2019年3月	代表
2	小川さやか	アジア・アフリカ諸国間の模造品取引に関する文化人類学的研究—携帯電話を事例に	若手(A)	2016年4月	2020年3月	代表
3	石田智恵	〈二世〉から見るブエノスアイレス都市社会の編成と変容:移民と市民の人類学的研究	若手(B)	2014年4月	2017年3月	代表
4	富田敬大	近現代モンゴルにおける人間=環境関係の変容に関する研究	若手(B)	2015年4月	2018年3月	代表
5	藤木俊之	火山噴火の植生へのインパクトと回復プロセスの高分解能な復元	基盤研究(C)	2014年4月	2017年3月	代表
6	那須浩郎	古代と中世における農耕地雑草の多様性変化と人間活動の関係	若手(B)	2013年4月	2016年3月	代表
7	中川毅	セルソーターを用いた次世代花粉化石濃縮法の開発と、放射性炭素年代測定の高精度化	挑戦的萌芽研究	2016年4月	2018年3月	代表
8	中川毅	水月湖と日本海の精密対比:ダンスガード・オシュガーイベントの原因論をめざして	基盤研究(A)	2015年4月	2018年3月	代表
9	渡辺公三	環境考古学を基軸とした人類学的「環太平洋文明学」の構築	基盤研究(A)	2013年10月	2017年3月	代表

8. 競争的資金等(科研費を除く)						
No.	氏名	研究課題	資金制度・研究費名	採択年月	終了年月	役割
1	富田敬大	近現代モンゴルにおける人間=環境関係の変容に関する研究	公益財団法人高梨学術奨励基金,若手研究助成	2014年4月	2016年3月	代表
2	神松幸弘	古代調味料の復元	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国文学研究資料館	2016年7月	2017年3月	分担

9. 知的財産権								
No.	氏名	名称	出願人区分	発明人区分	出願番号	公開番号	登録(特許)番号	国
該当なし								